

## 平成27年10月の大阪森林便り



### 樹木が育った年月しか木材は使えない？

- ・ 桧であれば、樹齢100年の木から取った材でも、使い方を間違わなければ500年は十分に使えます。
- ・ 木材は、環境条件が整っているときは耐久性が非常に高い材料です。
- ・ 木材が使えなくなる原因は、腐る、虫に食われる、燃えるなど、材質が劣化して力を支えられなくなるからです。
- ・ 木材の寿命を縮める原因は、繰り返し乾湿の変化にさらされる時と、長時間荷重が加わった状態で使ったり、繰り返し力が掛かっている時などです。
- ・ 濡れた状態、湿った状態で木材を使わないことです。
- ・ 木質の成分は化学的に非常に安定した物質なので、表面から1～2mm内部の材質はほとんど変わりません。
- ・ 桧材の例では、伐採し、使い始めてから約200年後に最も強くなります。その後、徐々に強度が下がり、伐採後1000年後に新材とほぼ同じ強さになるという結果があります。
- ・ ケヤキ材は使い始めてから徐々に強度が下がり、600年後には新材の6割程度になります。

(2015年9月1日 大阪木材仲買協同組合新聞記事より抜粋)



### 大阪府が森林環境税 個人対象、来年度導入へ

#### 京都府も

大阪府と京都府は、森林保全などを目的に森林環境税を2016年度から導入する方針。

大阪府は府民個人から年間300円程度を、京都市は府民個人から同500～600円を徴収します。徴収は2019年度まで。大阪府全体の徴収額は年間11億円。

2014年時点で全国35県が導入。近畿では大阪、京都の2府のみが未導入。

溪流沿いの倒木の搬出や流木を防ぐダム建設などの費用に充てます。

(2015年9月1日 日本経済新聞記事から抜粋)

## 欧州産集成材、安さで攻勢 国内市況を押し下げ

### 大手、対日輸出を本格化

欧州大手がルーマニアに新工場を建設。ルーマニアからの1～7月の輸入量は、前年同期と比べて19.3%増。集成材輸入量全体では9.2%減ですが、ルーマニア産は輸入量の約2割。国内市場の中でのシェアは5%。国産に比べて2000～3000円/m<sup>3</sup>程度安くなっています。国産の集成材も年初と比べて3%安く、4か月横ばいが続いています。

(2015年9月5日 日本経済新聞記事から抜粋)

## 合板の輸出好調 7月は4.2倍に

### フィリピン向け伸びる

フィリピン向けが40倍近くに増えました。マレーシア産丸太原料とする合板を日本の合板に切り替えています。中国向けは7割減りました。輸出総量の累計は、前年同期比2.4倍。

(2015年9月5日 日本経済新聞記事から抜粋)

## 北米産丸太が3か月連続上昇 9月積み対日価格

北米産丸太の対日価格が3か月連続で上昇しました。9月積みは8月比で15ドル高くなっています。北米の伐採業者は、中国の需要減に対応して伐採量を減らしています。山林火災を警戒して、操業を控える業者が目立ったことも伐採量が減る要因となりました。

(2015年9月11日 日本経済新聞記事から抜粋)

## 輸入合板の販売価格 対日価格高 転嫁できず。

### 型枠用、ゼネコンが抵抗

コンクリート型枠用合板の輸入品の価格が同値圏で推移しています。約3か月間横ばい。

マレーシアからの7月の輸入量は、前年同月比で27.7%減。

(2015年9月16日 日本経済新聞記事から抜粋)



## 今月の木の話 地球上の炭素循環について

「なぜ木を伐って使わなければならないのか」を説明するときには、森林の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）吸収能力や木材製品の炭素固定能力を強調するのが普通です。

増大する空気中のCO<sub>2</sub>を無公害的に吸収固定できるのは森林・木材だけです。

「地球上の炭素循環」から言えば、世界中の生きとし生けるものが炭素循環の輪の中にあること、そして空気中のCO<sub>2</sub>が無くなれば、生物界自体が地球上から消失します。

人間の体重の18%が炭素です。火葬されると、人体を構成していた炭素が、二酸化炭素となって空気中にばらまかれます。それが光合成によって植物に吸収されます。穀物のように動物に食べられることによって動物に生まれ変わるものもあります。草食動物が肉食動物に変わることもことがあります。さらに、木材のように長期間固定された後に元の循環の輪の中に戻っていくものもあります。炭素はまさに「輪廻して転生」しています。

（日刊木材新聞社発行「今さら人には聞けない木のはなし」より抜粋）

